

“お客さま以上にお客さま目線”をモットーに、きめ細かなサービスで建築・土木・リニューアル工事等を手がける

平岩建設は、公共施設をはじめ、民間建築でも医療・福祉施設、商業施設、教育施設、マンション、工場・倉庫、リニューアル工事など幅広い施工実績を有し、国や県、市が発注の土木工事も多く手がけている。4年前にはベトナムに進出し、日系企業の工場建設を中心にを行い順調な成長を見せている。今後も創業以来培われてきた“質の高い施工”と“お客さま以上にお客さま目線”のスタンスで顧客満足度を高め、確かな歩みで成長を続ける。



代表取締役社長 平岩 敏和氏

- 代表者 代表取締役社長 平岩 敏和
- 創業 昭和21年2月
- 設立 昭和28年5月
- 資本金 2億638万円
- 従業員数 130名
- 事業内容 総合建設業（建築一式・土木一式・水道施設工事他）、宅地建物取引業
- 所在地 〒359-1188 埼玉県所沢市南住吉8-19
TEL 04-2923-2221 FAX 04-2923-2297
- URL <http://www.hiraiwa.co.jp/>

今年創業74年を迎えた平岩建設株式会社は、ゼネコン部門とサブコン部門を併せ持つ総合建設会社である。

ゼネコン部門の「建築工事事部」「土木工事事部」「リニューアル工事事部」とサブコン部門の「躯体工事事部」の計4工事事部を有し、ゼネコン部門では街のランドマークとなる大型公共施設、河川や道路などのインフラ整備をはじめ、民間工事でも医療・福祉施設、商業施設、教育施設、マンション、工場・倉庫、リニューアル工事、耐震・省エネ改修工事等、さまざまな建物を施工する。

「建築工事は、ドア1枚の修理から、十数億円の大規模建築まで、設計施工も含め、官庁・民間工事とも幅広い物件に対応しております。土木工事は、国・県・市発注の公共工事を中心に、民間の造成工事なども行っています。躯体工事では、土工事、鉄骨建方、足場架設、コンクリート工事を大手ゼネコンさまからご発注いただいております」（平岩敏和社長）

商圏は埼玉県、東京都を中心とした関東全域。そして、4年前に進出したベトナムである。3代目を引き継いだ平岩社長は、就任以来、一貫して社員の意識改革、各部門の成長戦略に取り組んできた。海外進

出も果たし、現在順調に成長を続けている同社。さらなる成長に向けた挑戦も始まっている。

→ 意識改革と成長戦略で強い企業体質を獲得

同社は昭和21（1946）年、現社長の祖父・平岩研作氏が所沢で創業した。戦後復興で建設が急務であった時代、大手ゼネコンの依頼で躯体工事を行うことからスタート。その後高度経済成長期となり、人が増え、街が大きくなるにつれ建設需要も急増していった。やがてサブコンのほかゼネコンとして建築工事や土木工事も手がけることとなり、官民ともにさまざまな工事を請け負い、工事実績、経験、知見を積み重ねていく。こうして同社は、創業から右肩上がりの成長曲線を描いていった。

順調に推移していた成長に陰りが見え始めたのは、平成に入って少したった頃だった。日本経済を押し上げていたバブルが崩壊。箱モノをつくる時代が終わり、徐々に建設業界が冷え込んでいった。その後政権交代によって潮目が大きく変わり、公共工事が激減すると、業界全体で需要が縮小する氷河期に突入する。

「私が入社する前は、公共工事も多く景気が良い

時代もあったようです。私が社長に就任してからは、激減した公共工事の状況も踏まえ民間工事の獲得に注力するため、厳しい受注競争にも勝ち抜ける企業体質を目指して社員の意識改革と成長戦略に全力で取り組みました」

平岩社長は大手ゼネコンで5年修業をしたのち同社に入社。平成25(2013)年社長就任後、さまざまな改革に着手する。特に民間工事の受注に向けた営業力・提案力の強化、コストコントロールや他社との差別化戦略等、次々と施策を進めていった。やがて取り組みが少しずつ実を結び、業績が回復。年々完工高も上がり本業が安定すると、技能実習生の受け入れをきっかけとした次なるチャレンジ——ベトナムへの進出も果たした。

➔ お客さま以上にお客さま目線

同社が設計を行う際は、顧客の現状の要望のみならず、10年、20年先の夢や想いまでヒアリングする。同時に従業員や利用者にも細かくヒアリングを行い、日々の動線や使い勝手の要望等を漏れなく把握して必要な設計条件を明確にしている。他社設計を見直しムダなスペースを削ったりすることで、施設がコンパクトになりコストが低減、作業効率が上がり外部の駐車スペースも増やせた工場設計の事例や、女性が多い施設では同社の女性スタッフが利用者目線とどことん考え抜き、居心地の良いパウダールームを提案して好評を博した事例など、顧客さえ気づかない視点で企画提案を行うため顧客満足度が高い。

さらに、同社は設計段階で完成後の建物をリアルな3Dで確認できる先端動画技術を取り入れた。それによって顧客が事前に完成した建物を把握できると同時に、潜在ニーズも引き出すことができるというわけだ。そうした取り組みの源にあるのは、“お客さま以上にお客さま目線”で考え“高価で大切な商品を「見える化」して、お客さまにご納得いただいてから工事を始める”というポリシーだ。もちろん施工に対する評価も高い。

「祖父がよく言っていました。『細かな工夫を重ね

てより高い技術を追求することが大事だ』と。そうした“技術屋魂”は現在も受け継がれています」

創業以来、技術屋魂を胸に手がけてきた施工の品質は、多数の表彰実績にも裏付けされている。

「竣工して終わりではなく、そこから始まりなのです。自分目線ではなく、お客さま目線で、当社しかできない仕事をして、『やっぱり平岩建設に発注して良かった』、そう思ってもらえる仕事を目指しているのです」



➔ ベトナムでは大手ゼネコンとの差別化を徹底

平成28年、同社は現地のローカルゼネコンとの合弁会社をハノイに設立し、ベトナムにおいて日系製造業の工場建設に関わる事業を開始。そして2年後には平岩建設100%独資の「HIRAIWA VIETNAM」を設立する。

多くの苦労や困難がありながらも毎年売り上げを伸ばし、現在はホーチミンとハノイに2拠点を有している。大手日系ゼネコン各社がベトナムに進出済みのなか、後発で進出した地場ゼネコンである同社がなぜ売り上げを伸ばすことができるのか？ その答えはターゲットを絞り、サービスで差別化を図ったことにあった。

「ベトナム事業において当社は、大手ゼネコンさんが手厚いサービスがしにくい1~3億円ほどの物件をメインターゲットにしています。その規模だと大手さんの場合は日本人監督の巡回管理が多いと思いますが、当社だと日本人監督が常駐し、日本クオリティーをしっかり確保しますので、お客さまから大変喜ばれています。一方で、価格的には必要経費が低く抑えられるため、大手さんより安くサービスをご提供できるのです」

同社は日本人監督が常駐し、施主との打ち合わせはもちろん施工管理状況の報告書もすべて日本語で対応する点、さらに常駐する日本人監督が事細かに毎日現場でローカルスタッフの管理を行うため、日本クオリティーが確保できる点、また、大手ゼネコンと比べると事務所・人件費等の経費が圧倒的に少ないためリーズナブルな工事価格が実現できる点など、大手ゼネコンとの差別化を図っている。また、独自に開拓したローカル情報ネットワークを有し、工業団地のお勧め土地情報を提供するなど、日系製造業のベトナム進出に向けた用地選定サポートを行うのも強みだ。

「ベトナムには工業団地が数多くあります。当社なら独自に開拓した情報ネットワークで、割安かつ確かなローカル工業団地の情報もご提供できます」

4年間で10物件以上の工事を手がけ、同社ならではの小回りの利くサービスは高い評価を得ている。



ベトナム施工作品/ARION ELECTRIC VIET NAM CO.,LTD

➔ ベトナム企業と日本企業をマッチング

魅力溢れるベトナムへの同社の期待は高く、今後も工場建設事業を継続しながら、より広い視野で事業を展開していく考えだ。例えば医療や介護・福祉でベトナムに進出したいと考える日系企業とそれを受け入れたいベトナム企業とのマッチングなどの事業

も検討中だ。現在ベトナムでは、日本の高度な医療技術や高品質な介護・福祉サービスを求める富裕層のニーズがある。しかし、それをチャンスと捉えて進出を考えても、異国でのビジネスに二の足を踏む日系企業が多いというのだ。

「今年から日本で福祉の技術を学んだ技能実習生の帰国も始まります。私たちにはベトナム事業を通して培った、現地での人脈やパイプがありますので、マッチングのためのパートナー探しや進出のサポートなど力になれることも多いと考えています」

勤勉で親日的な国、ベトナム。平岩社長はこれまでの事業経験を生かし、介護・医療ビジネスに伸びしろのあるベトナムで、両国を結ぶ架け橋となって、さまざまな支援に取り組んでいきたいと語る。

➔ 100年企業に向けて

同社の社員数は130名。社内には、ベテランも若手も生き生きと活躍できる風土が醸成されている。30歳未満の若手社員で構成される同社の若手会では、自分たちでテーマを決め勉強会を開催したり、地域貢献事業や親睦事業を自ら企画運営するなど、若手が自立し成長できる環境も整備されている。また、同社には中国やミャンマー、ベトナム、台湾など、海外出身のスタッフも数多く在籍する。

「いずれは日本国内もさらにグローバル化してくると思います。その時に対応できるような“国際化力”を身につけていきたいと考えています」

柔軟な発想と将来を見据える視野、そして日々の地道な努力によりさらなる高みを目指す同社。100年企業に向けて確かな歩みで前進を続ける。



若手職員による勉強会